



TITLE:

1938年11月の天象

AUTHOR(S):

木邊

---

CITATION:

木邊. 1938年11月の天象. 天界 1938, 18(210): 96-94

ISSUE DATE:

1938-09-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167713>

RIGHT:

晩秋の宵 暮れやすい11月の空は、學校、務

め先、仕事先の歸路、早や木枯しに乗せて

來たかの如く、星をまたたかせて居る。

1938年

## 11月の天象

夕餉をすませる頃には、トツブリと暮れ

た空に、射手、へび遣ひ、ヘルクレスの諸

星座は、地平線に半ば體を沈めてしまつて居る。白鳥、琴、鷺も時の流れには抗し得ず、西への傾きが目立つて來た。南には木星が依然と大顔に控へて居り、ベガスの四邊型が中央に在るのは、前月と大して變りないが、少し望遠鏡を通して土星でも見て居る内に、冷え込む初冬の冷氣に氣が付く頃には、中央にはカシオペア、アンドロメダ、鯨と、北から南へ、今は無きロイヤル・ファミリーのエチオピア群に占められて居る。勿論是等は、先年亡んだハイレ・セラシエー一世のエチオピアよりは、エジプトの先祖に近いとは思はれるが。

ありや何んだらうと、見知らぬ人によく尋ねられる“すばる”は、東に高く、カペラやアルデバランも、もう堂々たる光輝を放つて居る。見へる見へる!! オリオンだ!! 双子も仲よくブランコをし乍ら昇つて來た!!

それにしても、餘りにも早い時だと一瞬思ひ出されるのも、又此の星座を見た時である。奥手の稻は今モミにされて居る。“少年易老學難成”誰かがそんな詩吟を口にして居る様に聴こへてならない。いや星が云つて居るのだらうかしら。しみじみと枯れかけた冷めたい田舎の草に腰を下ろして、もう一度星を見上げると、何んだかひとりでに掌を合せて見度くなる。この星は東亞の黎明木靈する天地にも光つて居るだらう。

太 陽 “天秤”座を通過して、下旬には“さそり”座の北端をかすめて“へび遣ひ”に入る。此の星座は黃道十二宮が創設された頃には、太陽は入らなかつたのであらうが、其後數千年を経て、春分點が前進した結果、黃道が通過する様になつたのである。例に依つて表記すれば

日付	赤 經	赤緯	晝間	夜間	夕刻の薄明終焉
<sup>日</sup> 1	<sup>h</sup> 14 <sup>m</sup> 22 <sup>s</sup> 11	-14° 9'	<sup>時間</sup> 10 <sup>分</sup> 45	<sup>時間</sup> 13 <sup>分</sup> 15	<sup>時</sup> 18 <sup>分</sup> 28
6	14 41 52	-15 43	10 37	13 23	18 25

11	15 1 54	-17 11	10 28	13 32	18 22
16	15 22 17	-18 31	10 19	13 41	18 18
21	15 43 2	-19 43	10 12	13 48	18 16
26	16 4 7	-20 47	10 5	13 55	18 15

の通りである。月末日没の最も早い時季になつて來た。

月 先づ1日、月齡9.1の月が“水瓶”座から始まる。グルット一周以上して、再び月末“水瓶”座に終る。其の間の様子は

日附	月齡	視直徑	星座	時刻	記 事
8	16.1	32' 07"	羊	7 <sup>時</sup>	滿 月
11	19.1	32 37	オリオン	13	近地點通過
15	23.1	32 05	か に	1	下 弦
22	0.5	30 17	天 秤	9	新 月
27	5.5	29 29	射 手	12	遠地點通過
30	8.5	29 51	水 瓶	12	上 弦

上表の如くである。闇夜が無くなるのは、7日から9日まで、反對に全く月の見られないのは、22日から24日までである。26日、月齡4.5の月が西天低く見られるのが次週の始まりだらう。(以上月齡は日本中央標準時21時の値である。)

水 星 夕空に居る。9日の夕には金星の南4°許りの所に居るが、可なり見難い。25日東方最大離角22°に達するが、赤緯が-25°であるから、一寸望遠鏡を向けるのには低すぎる。

金 星 さしもの王者も、1日停留を経て、實にすばやく太陽に近ずき、20日には内合する。内合前後に、弦の延びが半周以上になるのが観測されて、大氣の存在する證明にされてゐる。

火 星 “乙女”座中央部を通過中、依然観測は望み薄すである。

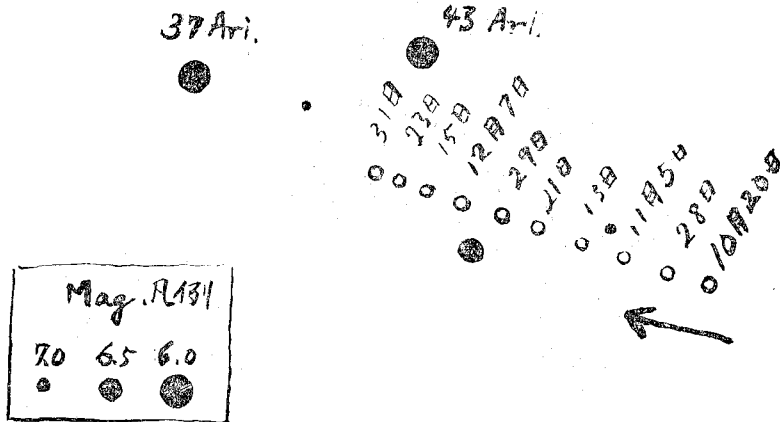
木 星 “山羊”座の東端で順行に移つた。大分西に傾いて來たが、其れでも未だ未だ觀望には好期である。視直徑は39''~36'', 光度-2.0~-1.9。

土 星 “魚”座の中央部に居て對衝を少しすぎた許り。本體の視直徑は17'', 輪は43''5もあるが、傾斜は8°餘りに減少する。然し今丁度見頃と云つてよ

い. 夕方早や東南の空に控へて居るのだから.

天王星 “牡羊”座で9日對衝になる. 光度6.1, 視直徑は3.6, 此處に圖を示す.  
肉眼か双眼鏡で確かめてから, 10cm150 倍の器械で見ると, 辛じて小さな青  
い丸に見へる. 衛星は25cm 位入要だが, 今迄に11cm で見た記録はある.

1938年10~12月, 天王星徑路



海王星 “獅子”座の東端, 曉に居るが一寸駄目.

冥王星 “かに”座に居る.

小遊星セレス	11月 2日	時 分 3 34.5	+10 度 分 19.2	光度 7.3
	6	3 30.9	10 15.0	7.3
	10	3 27.2	10 11.5	7.3
	14	3 23.3	10 8.8	7.3
	18	3 19.5	10 7.2	7.3
	22	3 15.7	10 6.7	7.3
	26	3 12.0	10 7.6	7.3
	30	3 8.4	10 10.0	7.3

アルゴル (ペルセのβ) 11月中に見られる極小は

3日の21時, 23日の22時5, 26日の19時5 である.

ユリウス日は11月1日21時(日本中央標準時)は2429204.0である. (木邊)